

地域との関わりを大切にした教育活動による 「地域を愛し、地域に愛され、地域に貢献できる南中生」の育成

幸田町立南部中学校

1 実践のねらい

- 地域の文化や地域の方の生き方を学ぶ取組を通して、地域の一員として地域を愛する気持ちを育む。
- 地域の方とともに活動する生徒の姿や学習の成果を地域・家庭に発信し、学校と地域、家庭との連携協力を推進する。

2 実践の内容

(1) 交流会活動

本校で20年間続く「交流会」。地域の方を講師にお招きし、着付け、将棋、茶道、手話、ハンドクラフトなど12の講座に分かれて縦割り活動している。年間4回の活動を通して、地域の方から文化だけでなく、生き方も学ぶ機会となっている。

初めは、なかなか自分から関わっていくことができなかつた生徒たちも、回を重ねるごとに、「ここ、これで合っていますか。」「この色はどうですか。」などと自分から声をかけたり、「まだ、進路全然決まっていなくていいですよ。」「親の言うことはちゃんと聞かんといかんぞ。」などと、活動しながら自然と会話が弾んだりする姿も見られるようになっていった。

また、10月の南中祭（文化祭）では、講師の方々をはじめ地域の方をお招きした。今年の南中祭のスローガンである「結笑」が表現された缶バッジを配付し、交流会で学んだことを舞台発表や作品展示という形で、地域の方に見ていただくことができた。

前回よりもちぎり絵の講師の方とコミュニケーションをとることができたと思います。自分から積極的に話しかけることもできました。ふだんの生活では、地域の方々と話をする機会があまりないので、改めて交流会のよさを感じました。先輩と交流しながら作ることもでき、アドバイスももらえます。私は自分から話しかけることが苦手ですが、多くの人と関わることで、自分の世界も広がると思うので、「自分から積極的に」を意識していきたいです。

講師の方々からたくさんの温かい声をいただくことができた。（活動を振り返ってのアンケートより）

- ・ 毎年生徒さんたちとの交流を楽しみにしています。学校に入ると、「こんにちは。」と挨拶されます。私も「こんにちは。」と返します。気持ちのよい瞬間です。大人になっても挨拶のできる人になってもらいたいです。
- ・ 生徒さんが真剣だったので、教えがいがあった。何より私自身が楽しかった。

(2) 地域の行事である「ふこうず夏まつり」への参加

第20回を数える地域の夏の祭り、「ふこうず夏まつり」に1ブース出店できるようになった。地域の方に楽しんでもらえるものは何かを話し合い、的あてゲームをすることを決めた。手作りの的を準備したり、ポップな看板を制作したりし、夏まつりの本番を迎えた。「的あてゲームをやっていますよ。」と看板を掲げて場内で声をかけて回ったり、優しくルールを説明したり、ゲームをしている地域の方と一緒に盛り上がったりすることができた。

また、南中ソーランをオープニングと祭りの佳境での2回披露する機会をいただいた。会場中が注目する中、力いっぱいソーランを披露し、祭りの雰



大凧づくりを学ぶ凧講座

生け花を学ぶ華道講座



地域の方にお点前を披露

和太鼓の発表



いらっしゃい！的あてゲーム

囲気を盛り上げることができた。さらに、頼まれた受付を笑顔で行ったり、みんなで盆踊りに参加して盛り上げたりする姿も見られた。主催者から「南中生が盆踊りの輪に入って来て、すごく盛り上がってありがたかった。」という声もいただき、地域に貢献する喜びを感じることができた。



夏まつりを盛り上げる南中ソーラン

例年とは違い、南中3年生で屋台を出すことになりました。初めてのことでお手本となるものがなく、手探りの状態で進めていくのは不安でした。しかし、みんなで協力して、少ない時間を有効に使い、少しずつ形が見えてくると、そんな気持ちもなくなりました。当日の屋台で地域の人々、特に小さい子供たちが楽しんでいる様子や屋台の運営を笑顔で盛り上げている仲間の姿を見て、やってよかったと思いました。また、ソーランを披露する機会を2回もいただきました。いつもと違う雰囲気の中で踊るのは緊張したけれど、最高の夏休みになりました。



盆踊りに飛び入り参加

(3) 学区敬老会や福祉施設、保育施設での南中ソーラン披露

学区の敬老会の場や学区にある4つの保育園や幼稚園、老人福祉施設の場において、南中ソーランを披露した。地域の方から「中学生のソーランを見ると元気が出る。」というお声を伺ったり、一緒に踊り出す園児の姿が見られたりし、生徒たちは地域に貢献しているという充実感を味わうことができた。



敬老会で

保育園で

敬老会に行き、最初は駐車場からの案内係をしました。そのとき、「中学生の子たちがソーランを踊ってくれるらしいで。」「ほう、そりゃ楽しみだね。」という会話が聞こえてきました。俄然やる気が出てきました。（中略）敬老会に参加して、地域の方々の笑顔をたくさん見ることができ、自分たちの暮らしている地域の温かさを感じることができたので感謝しています。

(4) 防災学習の推進

地域に貢献できる中学生として、「災害が起きたときに、中学生ができること」について、防災学習を進めた。10月には、学区避難訓練に参加し、避難所での仕事を確認して手伝ったり、炊き出しをしたりした。「支援物資の搬入の手伝いや場所への案内など、中学生にできることがたくさんあるとわかった。率先して行動できるように判断する力を身に付けたい。」などと考えをもつことができた。



学区避難訓練に参加



避難所生活でできることは

12月には、日本赤十字社から講師をお招きして減災に関する体験活動をした。災害時の避難所生活を想定して、ハンドマッサージや高齢者向けの立ち上がりを補助する方法を学んだ。「手を背中にあててもらおうとあたたかい。」「避難所でおばあちゃんがいたら話しかけてみよう。」と、避難所で自分たちにできることを考えながら体験することができた。

3 実践の成果や課題

- ・ 交流会や夏まつりを通して、地域の方と進んで関わる中で、地域の方の温かさを感じたり、地域の方が中学生にかける願いに気付いたりすることができた。
- ・ 南中ソーランを様々な場で披露したり、自分たちにできることは何かという視点で防災学習を推進したりしたことで、地域に貢献しようとする意識を高めることができた。
- ・ 地域の方と関わる場が設定されていることで動き出せる生徒が多く見られるようになった。今後、それが日々の生活の中に生かされていくようにしていきたい。